



# 指標達成のためのウォッチング項目について

令和9年度の実態調査で、本計画の指標の目標を達成していくために、必要な検討・分析していく材料として、以下のウォッチング項目を設定しています。

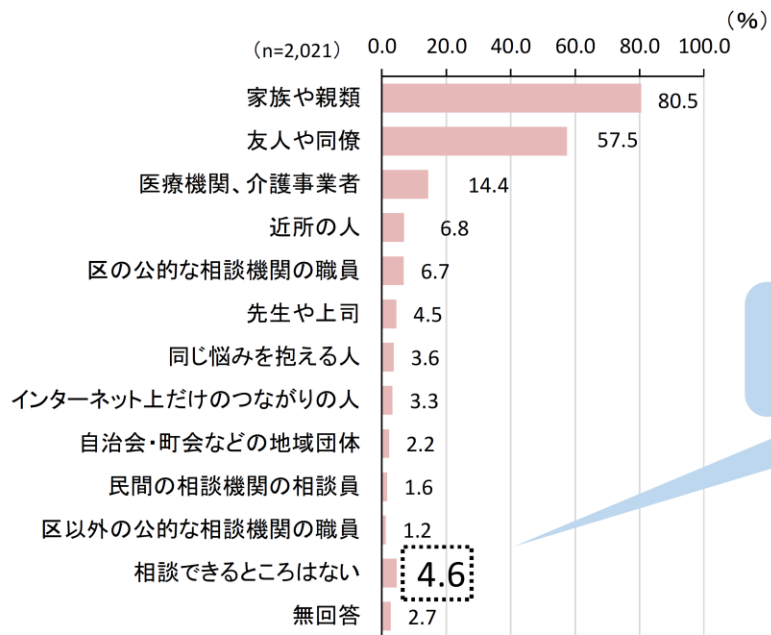
このウォッチング項目の動向や分析をふまえて、必要な議論を重ね、本計画の進捗管理を行っていきます。

基本目標	計画の指標	直近値	目標	ウォッチング項目
1 つながりを感じることができる地域をめざします。	孤独感や孤立感がないと答えた方の割合	68.7%		現状の居場所分析
	自宅以外で居心地のよい場所を持てる人の割合	80.3%		
	さまざまな特徴や個性をもつ人たちに対し、思いやりや優しさをもって接することができる人の割合	49.0%		現状の居場所への支援策
2 誰もが地域に参加できる共生のまちづくりを進めます。	多様な主体の連携・協働が住みやすい地域づくりにつながっていると実感している人の割合	32.1%		連携協働の事例の見える化
	現在住んでいるまちで、何らかの地域活動に参加したいと思う人の割合	47.9%		区民が参加できる地域活動やボランティアの種別
3 安心して生活できる地域を支えます	困りごとを抱えた際に誰にも相談できない人の割合	4.6%		困りごとや心配ごとの相談先の種別・候補
	災害時に、できる範囲で地域のために活動ができる人の割合	83.9%		区内の防災・減災訓練や活動状況の把握

## 施策 7 指標

### 困りごとを抱えた際に誰にも相談できない方の割合を減らします

<困りごとや心配ごとの相談先>



困りごとを抱えた際に、誰にも相談できない方は 4.6%。

資料:大田区政に関する世論調査(令和5年7月実施)

⇒区は、区民のみなさんと一体となり、みなさんが困りごとを抱えた際に、身近な日常のつながりの中で、気軽に相談ができ、課題を解決していけるような仕組みづくりを進めていきます。

# 家族以外の困りごとや心配ごとの身近な相談先の種別・候補

活動等を通じて、顔を合わせる機会があり、何かあったときや、心配ごと、わからないことなどがあったときに家族以外で相談できる相手、聞いてあげられる相手となりえるものを想定している。

身近な相談先	主な対象者	内容
自治会・町会	高齢者、子育て世帯等	一定の地域に住む人たちが協力し合い、自主的に運営する団体。18の地域(特別出張所区域)に218の自治会・町会がある。行政機関である特別出張所を拠点として、様々な団体と対等な立場で協力関係を築きながら、地域の問題解決や絆を結ぶための活動に取り組んでいる。
民生委員児童委員	高齢者、子育て世帯等	生活に困っている方や高齢者、障がいのある方、子育て世帯など幅広く地域の方々の相談に応じている。その悩みや問題を解決につなげるため、必要な情報を提供したり、区の窓口や専門機関へとつなげる「橋渡し役」をしている。
居場所(余暇活動・サークル活動)	全区民	学習・文化・スポーツなどにより、自己実現を図り、その活動を通じて地域交流を進めている社会教育団体や区民活動団体等が行う居場所
老人いきいの家	高齢者	高齢者に教養の向上、レクリエーション、介護予防等のための場を提供し、高齢者の心身の健康増進を図ることを目的にした施設
シニアステーション	高齢者	高齢者の元気維持・介護予防のための事業を実施
高齢者見守り推進事業者	高齢者	窓口や訪問先で高齢者の異変を感じた際、地域包括支援センターに情報提供を行ったり、区が発行する高齢者の福祉サービスに関するパンフレット等を配布したりする。
高齢者見守り協力店	高齢者	高齢者の見守りを行っている商店等に、「見守り協力店ポスター」を配布しており、見守り協力店は、買い物に来た高齢者に声かけをしたり、気になる様子的高齢者がいた場合、地域包括支援センターに連絡するなど、地域の中で高齢者を温かく見守っている。

身近な相談先	主な対象者	内容
ほほえみ訪問 (絆サポーター)	高齢者	65歳以上の方または心身に障がいのある方へ、ひと月に2回程度訪問し、玄関先でのあいさつや会話を通して、安否の確認や情報を提供する絆サポーター
児童館	こども・親	図書室や工作室、遊戯室などがあり、乳幼児親子や小学生、中学生の遊びとふれあい、仲間づくりの場となっている。
ファミリー・アテンダント	子育て世帯	子育て世帯の孤独・孤立の防止を図るアウトリーチ型の支援として、子育て経験や子育てに関わりのある訪問員による見守り訪問や、地域ボランティアによる伴奏支援を実施している。
各種生活支援サービス (絆サポーターやにこにこサポート等)	子育て世帯	区や社会福祉協議会、シルバー人材センターなどで地域のボランティアの方を募集し、産前・産後の方への家事援助等の生活サポートを行っている。
こどもSOSの家 (協力員)	こども	趣旨に賛同した区民が協力員となって、こどもたちが下校時などで、つきまとい行為などの被害を受けそうになったり、身の危険を感じたりしたときに助けを求めることができる避難所
こども食堂	こども・親、 高齢者	こどもが一人でも安心して利用できるように食事提供をしている食堂で、体験や学習の場、多世代交流など、誰もが気軽に集まれる居場所
フードパントリー団体	生活困窮者、 ひとり親、高 齢者等	ご家庭、企業・団体の皆さんからのご寄付や、募金を原資に、一時的に生活を維持するための収入を得ることが困難な状況になった方に対して、無料で食料を提供する活動
学習支援団体	こども	こどもを対象に、多様な学びの機会や体験を提供し、貧困の連鎖を断ち切る活動を実施している。家庭環境に左右されることのない学びの機会の提供だけでなく、「生きる力」や「自己肯定感」を育む場にもなっている。
福祉施設関係	全区民	主に社会福祉法人が運営するなど、高齢者の特別養護老人ホームや、障害者の福祉作業所などがあり、施設によっては、多目的室などを地域に開放したり、施設のお祭りなどを行い、地域との交流も図っている。

## 令和7年度第2回大田区地域福祉計画推進会議の委員からの意見をふまえて追加したこと

身近な相談先	主な対象者	内容
シニアクラブ	高齢者	日々の生活を健全で豊かなものにするため、おおむね60歳以上の方が集まり、会員によるボランティア、健康の増進、生きがいを高めるための運動などを行っている。
福祉事業者	全区民	地域の高齢者や自治会町会などとの関係から福祉の相談が入ってくることもある。
病院、歯医者	全区民	かかりつけの病院や歯医者などでは、病気等をきっかけとした相談や、待合室での井戸端会議になるなどの身近な相談の場になっている。
家族会、当事者の会	障害当事者やその家族	当事者やその家族同士だからこそ、悩み等に相談しあうことがある。

### 今後、充実が必要そうな相談先(特に身寄りのない方への身近な相談)

次回以降に向けて調査・検討していく。

#### 身近な相談先

妊婦がもっと気軽に相談できる場

外国籍の方が実際に困ったときに相談できる場

# 区内の防災・減災訓練や活動状況の把握

防災・減災活動名	内容	対象者	備考
どこでもおおた防災セミナー(出前講座)	申込団体が希望する日時・場所に専門家を派遣し、風水害対策・震災についての講義や「マイ・タイムライン」作成、地震発生時の避難行動について説明	自治体・町会、マンション管理組合などグループ単位	
小・中学生向けおおた防災教室(学校で行う出前講座)	各小・中学校へ防災の専門家を派遣し、風水害時の避難やハザードマップの見方、大規模地震発生時大田区の被害想定等についてわかりやすく授業を行う	小学校(3から6年生)、中学校	
大田区体感型防災アトラクション	設定された制限時間内に仲間とともに協力し、発想力、創造力を駆使して安全確保(脱出)を目指す「全員参加型 体験学習」	区内在住・在学・在勤の方	
おおた防災セミナー	専門家を講師として招き、気象災害の特徴や災害時の情報の収集方法、地震発生時の被害想定や避難行動について学ぶ	自治会・町会、地域団体、学校、家族 等	風水害編、震災編のほか、小中学生向けの出前講座もある。
市民消火隊等合同訓練	市民消火隊、ミニポンプ隊合同訓練。操法発表、ポンプ整備教養、スタンドパイプ取扱体験	市民消火隊・ミニポンプ隊隊員	自治会・町会を母体とする防災市民組織

防災・減災活動名	内容	対象者	備考
<p>発災対応型防災訓練</p>	<p>皆さんが住むまちの中を訓練会場として、地震発生時に地域にある資器材を活用して、災害対応を行う防災訓練</p>	<p>地域住民等</p>	<p>例： ザ・リバープレイス自治会のマンション防災活動、 大森三丁目連合町会の「まちかど防災訓練」・地域の防災リーダー「市民救護隊」、 東六郷一丁目町会の「災害時要援護者」支援体制の整備と居住外国人の参加する防災訓練</p>
<p>防災運動会</p>	<p>防災の知識を楽しく学びながら、地域の顔と顔の見える関係を築く(無線通信訓練、防災〇×クイズ、防災宝探し、避難所体験、バケツリレー)</p>	<p>大人からこどもまでの幅広い地域住民</p>	<p>例： 蒲田東地区自治会連合会のまもりんピック蒲田東(防災運動会)</p>
<p>学校防災活動拠点の訓練</p>	<p>小・中学校などを避難所機能・情報拠点・地域活動拠点の機能を併せ持つ「学校防災活動拠点」とした。「避難所運営マニュアル」の作成、学校防災活動拠点開設・運営訓練を実施</p>	<p>各地区の自治会・町会等</p>	<p>災害時に備え町会、学校、特別出張所の三者が一体となり、運営している。</p>
<p>災害ボランティアバンク</p>	<p>大田区における災害時に、災害ボランティアセンターを開設する際に、登録ボランティアに参集を案内する。平時は、災害ボランティアについて学べる講座や訓練を案内している。</p>	<p>災害ボラセンに協力を希望する方、被災地支援の経験者</p>	<p>登録者には、LINEで災害ボランティア関係の情報をご案内している。</p>
<p>区民活動団体による防災活動</p>	<p>防災・減災活動に関するセミナーやワークショップ等を実施し、意識・啓発など</p>	<p>地域住民等</p>	<p>やっこさんの会、縁プロジェクト、コネクト、地域パートナーシップ支援センター</p>

## 令和7年度第2回大田区地域福祉計画推進会議の委員からの意見をふまえて追加したこと

防災・減災活動名	内容	対象者	備考
個別避難計画やマイタイムラインの作成	災害時における避難計画等を検討する際に、防災・減災を可かが得るきっかけになる。またOWAT(大田区災害時福祉支援チーム)の活動を検討していく中で、平時からの取組も活かせる可能性がある。	災害時要配慮者 地域包括支援センター 介護支援専門員 社会福祉士など	
福祉施設等の見学	自治会・町会や民生委員児童委員などの地域の方がグループホームなどを見学して、意見交換することで、災害時のことなどを含め学ぶことがある	福祉施設利用者 地域住民等	
自立支援協議会や障害者団体等の活動	大田区の自立支援協議会の防災安全部会や、大身連などの障害者団体の勉強会などで、防災に関する取組、勉強会などを実施している。		